

日本語専門基礎

齋藤 伸子

はじめに

桜美林大学には、大きく分けて4タイプの留学生がいる。大学1年生として入学する留学生、海外の提携校から半年または1年の予定で来日して本学に在籍する留学生、大学院に在籍する留学生、日本語文化学院（留学生別科）に在籍する留学生である。本稿では、このうち1年生として入学した留学生（以下、学群留学生）を対象とする「日本語専門基礎」について紹介する。

日本語専門基礎は学群留学生の1年次のコア科目であり、「日本語専門基礎 AI」「日本語専門基礎 AII」「日本語専門基礎 B」の3科目から成る。日本語専門基礎の3科目では、大学生として必要とされる読む力、書く力、話す力、聞く力をつけることができるよう、学群・学部の授業で学生が実際にこなさなくてはならない課題や授業の困難点を洗い出し、それに対応するスキル別達成目標を立ててシラバスを組んでいる。「日本語専門基礎 B」は、個別のニーズや弱点強化に対応し学生が自律的な学習者になることを支援する、個別指導型のチュートリアル形式で授業を行っている。

1. 日本語専門基礎の位置づけと履修者

「日本語専門基礎」は1年次の学群留学生のための必修のコア科目である。2012年10月現在、桜美林大学に在籍する留学生は、以下の内訳になっている。（この他に、国内提携校からの留学生等が数名在籍している。）

表1 2012年10月現在の留学生数

学群留学生	244 名
大学院留学生	101 名
RJ（交換）留学生	112 名
日本語文化学院（留学生別科）留学生	64 名
計	521 名

学群留学生の学年別人数は以下のとおりである。このうち1年生が日本語専門基礎を履修している。¹

表2 学群留学生の学年別人数

1年生	2年生	3年生	4年生
65	61	64	54

日本語専門基礎は、「日本語専門基礎 AI」「日本語専門基礎 AII」「日本語専門基礎 B」の3科目から成る。学群留学生は通常、英語コアに代わり日本語専門基礎が年間10単位必修となっており、入学時に行うプレイスメントテストの結果、学群パターン²・レベル別のクラス分けされてこの3科目を履修することになる。単位数の内訳は、日本語専門基礎 AI および日本語専門基礎 AII は2単位 × 2学期 = 年間各4単位、日本語専門基礎 B は1単位 × 2学期 = 年間2単位である。

2. 日本語専門基礎の概要

日本語専門基礎は、留学生が日本語で授業を受け、単位を取得し、卒業するために必要な日本語力を身につけることを目的として設置された1年間、計10単位のコースである。その特徴は、①学部・学群での勉学における問題を直接解決するために、今必要な日本語を学習すること、②学生が自律的に学習を進めていくことができるように学習アドバイジングの時間を組み込んでいること、にある。

日本語専門基礎の目標は以下の3点である。

- (1) 大学での勉学および生活のために必要な日本語を理解し、表現することができるようになる
- (2) その目標を達成するためのスキルやストラテジーを身につける
- (3) 自分に合った学習方法や自分に必要な学習内容を自分で見出し、それを習得すること

以下に、科目の構成と具体的な目標を示す。(以下、池田(2011)『OBIRIN TODAY』Vol. 12 (pp. 89-94) より一部修正して引用)

表3 「日本語専門基礎」構成と目標 ※「コマ」は週当たりの数

科目名	コマ	目標
日本語 専門基礎 AI	2	(1学期目) <ul style="list-style-type: none"> 書き言葉を使って、正確に文章が書けるようになる。 パラグラフを使って論理的な構成の文章が書けるようになる。 自分でレポートを書くための基礎的な力を身につける。
		(2学期目) <ul style="list-style-type: none"> レポートが書けるようになること
日本語 専門基礎 AII	2	<ul style="list-style-type: none"> 読解のストラテジーを身につけ、論説文が読めるようになる。 ニュースや新聞記事を理解して意見の交換ができるようになる。 聴解のストラテジーを身につけ、ニュースが聞けるようになる。 講義を聞く技術を知り、使えるようになる。 講義を理解し、ノートにまとめ、リアクションペーパーが書けるようになる。 大学での勉学において必要な文法項目についての知識を整理し、適切に運用できるようにする。 専門的な文章や新聞記事の中の漢字語彙や連語を理解できるようにする。
日本語 専門基礎 B	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の状況と問題点を知り、どのような日本語が必要かを考え、学習目標を立てる。 どのような学習方法が自分に適しているか考え、自分の学習スタイルを知る。 自分で学習を管理する能力を身に付ける。 弱点やさらに伸ばしたい点を、集中的に学習して、日本語力の向上を図る。

3. 日本語専門基礎の特徴

3-1 パラグラフ・ライティングで型を学ぶ「日本語専門基礎 AI」

日本語専門基礎 AIではアカデミック・ライティングを学ぶが、学生ははじめから長いレポートが書けるわけではない。そのため、初年次終了時点でレポートが書けるようになることを目標にして、スモールステップで学べるように1年間のコースを組み立てている。以下、使用するオリジナルのテキスト『これで書ける アカデミック・ライティング』の前書きを引用して、その考え方と流れを記す。

「レポートは、①情報を得る、②まとめる、③書くというプロセスを経て完成させるものです。このテキストではこの3つのプロセスで必要になることを練習し、徐々に本格的なレポートが書けるようにしていきます。このテキストは準備編、基礎編、実践編で構成されています。準備編では「③書く」ときに必要となる技術である基本的な文体や表現を身につける練習をし、レポートにふさわしい文体・表現で書けるようになることを目標にしています。これはレポートを書く技術のすべての基礎となるものです。

基礎編では「②まとめる」技術であるパラグラフ・ライティングの基礎を身につける練習をします。そして、内容に合ったパラグラフの展開法を使って様々な内容をわかりやすく書けるようにします。実践編では「①情報を得る」技術として、資料などで調べたことを引用、要約する技術を練習します。実践編の最後に、今まで身につけた技術を使って実際のレポートを書くことができるようになっています。

第一学期には基礎編と準備編でレポートを書くための基礎を身につけ、第二学期には実践編で実際のレポートを書けるようにします。」

パラグラフ・ライティングでは、「空間・位置のパラグラフ」「時間・順序のパラグラフ」「分類のパラグラフ」「原因・結果のパラグラフ」「意見のパラグラフ」を取り上げ、それぞれの内容書く際にふさわしい文章の流れと表現を学ぶ。日本語の総合力が十分でない学生にとっては、学群の授業を履修して課題をこなしていく際に、アカデミック・ライティングの型を学ぶことは大きな助けになる。

さらに、書くうえで自分のおかしやすい誤りを自覚し予防するために、教師の指摘した誤りを学生が自分で系統的に整理し、リライトする時間を設けている。学期末には、自己分析表に記入して、自分のライティング能力と改善点の自覚を促す。

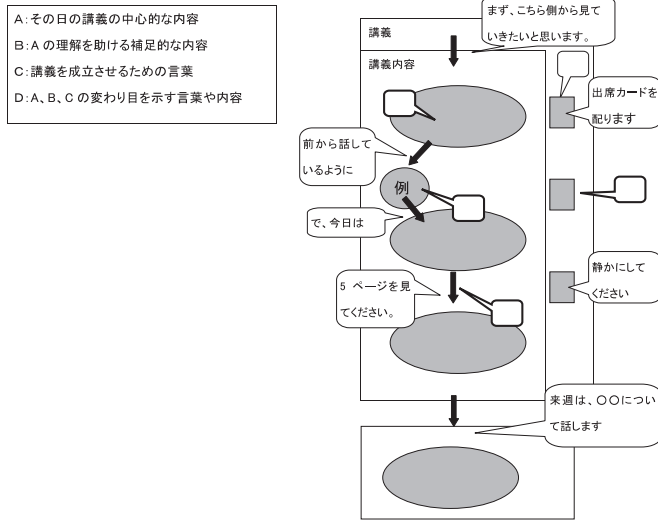
3-2 講義の聴き方を学ぶ「日本語専門基礎 A II」

大学に入学してしばらくしてから学群留学生に困っていることはないかと尋ねると、多くの学生から「講義が聞き取れない」という声上がる。読み書きには不十分なところもあるが日常会話はほぼ不自由しなくなったと自覚している多くの学群留学生にとって、それは衝撃的な事実である。少し古いですが、2005年に留学生にヒヤリングをした際に聞こえてきた声も深刻であった。一部を以下に紹介する。

- ① 「(科目名)」はレジユメがないのでカタカナ語、人の名前のノートもとれず、最後にわかったことを書かせられるが何も書けない。
- ② ○○学が分からなくて困っている。わかろうとして入門の本を借りて読んでみると、授業とは違うことをいっているのがわかりにくい。
- ③ 講義の時話すスピードが速い先生の講義はノートが取れない。試験のとき困ると思う。
- ④ 今日、テストを受けて60%ぐらいわからなくて、初めて○○学部を選んだのを後悔して卒業できるかわからなくなりました。1年後に転部も考えるかもしれない。

留学生の講義が聴けない理由のひとつに、講義の構造がわからないことがあると言われる。たとえばどこからが本題で、どこからが雑談か、どこで話題が変わったのかわから

図1 講義の構造を学ぶ練習シート



ないというもので、そのため日本語専門基礎 A II では、講義の構造を学ぶ活動を取り入れている。左の練習シートでは、吹き出しの中に入っている談話マーカーを利用して、講義の構造を理解する方法を学ぶ。

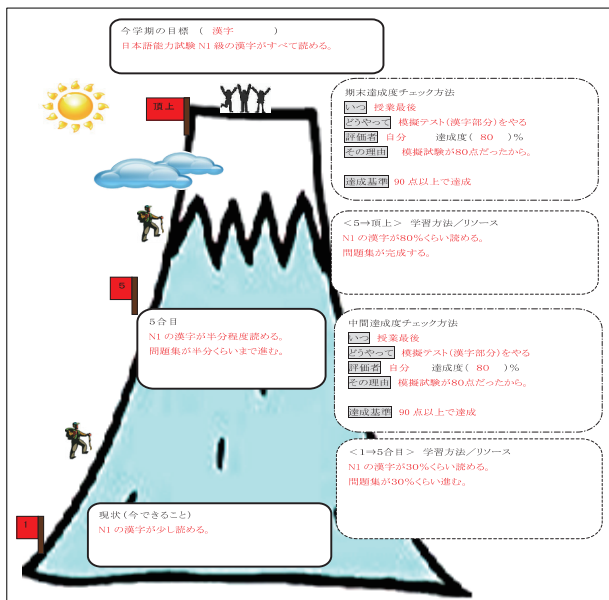
特徴的なのは、このような練習の際に、他学群の先生方をお願いして録画させていただいた、実際の講義の映像を教材として使っていることである。実際の講義の映像を見ることによ

り、学生の当事者としての問題意識が上がることを期待している。

3-3 個別のアドバイジングを行う「日本語専門基礎 B」

前述のように、日本語専門基礎は留学生の学習上の問題を日本語の面から解決するための科目であり、日本語専門基礎 A I、日本語専門基礎 A II、日本語専門基礎 B の 3 科目は

図2 目標・計画・評価設定シート記入例 (部分)
※ 実際は赤字の部分を学生が記入する



それぞれ役割分担をしつつ有機的に関連しあっている。日本語専門基礎 A I および A II では、学群の授業を受けて単位を取り卒業していくために求められる日本語のスキルと知識に密接に対応したシラバスが組まれているが、その日本語を獲得するまでの距離もたどる道筋も、学生個人によって大きく異なるのが現実である。そこで、皆に必要な内容は日本語専門基礎 A I および A II で学習し、個別に必要なことは日本語専門基礎 B で個別のアドバイスを受けながら学習するという役割分担がなされている。

日本語専門基礎Bでは「チュートリアル」という桜美林日本語プログラムのオリジナルの授業形式で、学生が自分に必要な学習内容や自分に合った学習方法に自ら気づき、自分で目標と計画を立てて自律的に学習を進めていくのを教師が個別にアドバイスしながら支援する。また各学生に対し学期中に数回各15分程度、教師が個別に話す時間を設け、振り返りを促し、必要なアドバイジングをする。目標設定のための学生記入用には、今年度は富士山をかたどったシートを作成して使っている。このような活動をとおして、大学生として身につけるべき自律的な姿勢と学習方法を初年次に身につけることに、日本語専門基礎Bのねらいがある。

4. 留学生の日本語力と日本語専門基礎の課題

最近、学群留学生の日本語力が落ちているという声を、日本語専門基礎担当教師からしばしば聞くようになった。実際に、ここ数年ほぼ同じ担当教師がほぼ同じ学習項目を授業で扱い、ほぼ同じレベルの試験を行ったにもかかわらず、2012年度春学期には、大量の不合格者が出ることになった。大学の成績評価のガイドラインの影響ばかりではなく、実際に、日本語専門基礎の授業すら理解が困難な学群留学生や、日本語力ばかりではなく、動機づけや基礎学力に問題のある学生が存在する。

このような現状を考えつつ、問題に対処しながら、今後もよりよいコースの構築を目指していきたい。

注

1. AO入試等で入学した日本語を母語としない学生も、本人の希望と日本語レベルの判定により、日本語専門基礎を履修することがある。また、留学生であっても高度の日本語力を有すると認められた場合には、日本語専門基礎のすべてあるいは一部の履修を免除することもあるが、その数は概ね2～3名以下である。
2. ビジスマネジメント学群、健康福祉学群、総合文化学群（2012年現在の名称）生の混合クラスと、リベラルアーツ学群生のクラスの2パターンがある。
3. 齋藤伸子「大学生の日本語力を上げるには－日本語プログラムの実践－」『OBIRIN TODAY』9（2008）を参考に記述。

※ 日本語専門基礎は、兼任講師を中心とした複数の教員で運営しており、筆者は池田智子氏と共にコーディネータとして本プログラムに関わっている。本稿で紹介した取り組みや教材は、複数の担当教員が開発したものである。